

令和3年度 (一社) 島根県建築士事務所協会主催
第11回「学生設計コンクール」
優秀賞を受賞しました!



令和4年2月15日(火)に本校で、(一社)島根県建築士事務所協会主催 第11回「学生設計コンクール」(応募作品70点)の受賞式が行われました。「私の住みたい家」のテーマで県内工業高校より応募された 作品の中から、
建築・電気科3年勝田優亜さん(浜田東中卒)、嶋田 琳さん(青陵中卒)が**優秀賞を受賞**しました。おめでとうございます。

【優秀賞】講評

私の住みたい家

江津民泊「#Goutsu Minpaku」

～新しいものと懐かしいものの調和・ワンランク上の上質な家～

今日『空き家の再生』は地方だけでなく全国的な問題と言えます。本案は地域の実状と宿泊者数、観光入込客数データ等も調べ、具体的な事例を基に発案されたようです。平面プランも構造的に無理なく計画されていて、すぐにでも実施できそうだと感じました。古風な囲炉裏のある部屋、土間空間、中庭の露天風呂、四季を感じる庭等、よく考えられています。住居と民泊施設を組み合わせ、滞在型の観光を目指す意欲的なところが好評でした。望ましくは学生ならではのユニークな発想がもう少し欲しかったところです。

江津民泊

#Gotsu Minpaku

~新しいものと懐かしいものの調和・ワンランク上の上質な家~

私たちは江津市が抱えている問題について考えてみた。その中でも「空き家問題」に着目し、「空き家」を解体するのではなく他の建物に再活用できないかと考えた。また、鳥根県観光調査結果から江津市には「宿泊施設」が少ないことも分かった。

私たち夫婦は広島県に任んでいた。実家である江津市に移り住み、民泊を経営しようと考えた。新築の家を建てようとも考えていたが、友人からある空き家を紹介された。そこは駅から近く、商業地域で建物は立派な木村で造られており、高級のある家柄であった。この家を買うことにし、改修・増築をして宿泊スペースと私たちの生活スペースを造ることにした。

民泊施設には、和室と洋室を設け都会の人や地方の人にも楽しんでもらい、いずれはカフェを開設し若者や女性にも訪れもらえるような要素を含みたいと考えた。

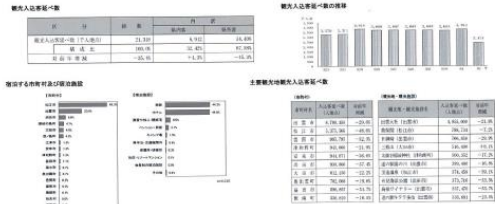
「#Gotsu Minpaku」(ハッシュタグごつすみんぱく)というネーミングにした由縁は、現代はSNSが活発になっています。記号の「#」(ハッシュマーク)はハッシュタグと呼ばれており、SNSの投稿でタグされ、この江津民泊がどんどん発信されてほしいという思いからこのネーミングにしました。

建物周辺の様子



建物の様子
庭の様子
庭の様子
庭の様子
庭の様子
庭の様子

宿泊施設の必要性 (データ)



鳥根県民泊調査 鳥根県観光調査結果、引用

令和2年度の鳥根県観光客総数は前年比約2100万人で、前年と比べると約1100万人が減少しています。それ以前は約200万人前後で、今後コロナウイルス感染症の影響がなくなれば戻ると予想されます。令和2年度は石見地区の大浜町、岡田市で約170万人の観光客があり、これにともない宿泊施設も必要とされます。

宿泊施設は、宿泊客を100%とすると和室・洋室で約70%の施設があるもの、江津市は15%、浜田市で6%と互見地区の宿泊施設が数割に少なく、夜間の観光客の受け入れができていない状態です。そのため、観光経済の恩恵を受けていないと考えます。

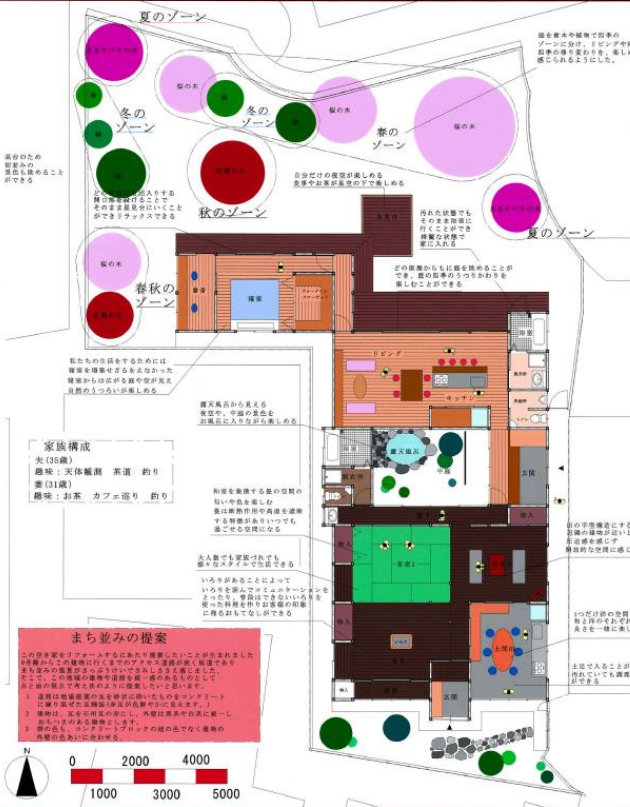
そこでこの家を建てる。観光客が日帰りや他地域に宿泊せず、地域のスクールに合わせた宿泊施設を考えることにしました。宿泊施設には実家を利用して、お客様がつかうける別荘感覚的な民泊をつくりたいと思います。また、この施設で宿泊して少しでも長く滞在し、ここを拠点に江津市周辺の町へ何度も観光してほしいです。

現況の平面図

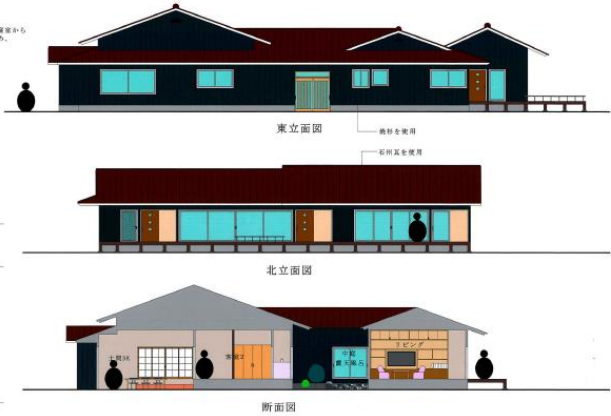


敷地
アクセス方法

鳥根県立江津工業高等学校3年 勝田 優亜・嶋田 琳



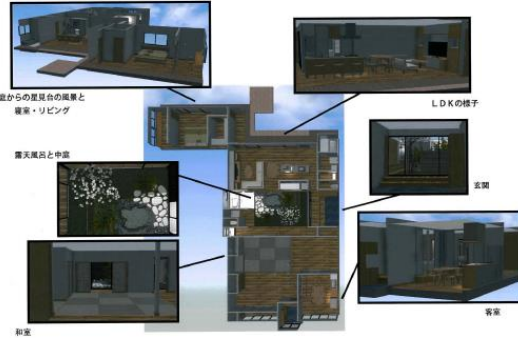
まちなぎの提案
この家をリフォームするにあたり、まちなぎを提案しました。まちなぎとは、地域の歴史や文化を伝えるための施設です。また、まちなぎの設置によって、地域の活性化が図れます。まちなぎの設置には、地域の歴史や文化を伝えるための施設です。また、まちなぎの設置によって、地域の活性化が図れます。



東立面図

北立面図

断面図



リビング

LDKの様子

和室

鳥根県立江津工業高校3年 勝田 優亜・嶋田 琳